

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200302		
法人名	特定非営利活動法人ソーシャル・ネットワーク		
事業所名	グループホームぬくもりの里かもの		
所在地	岐阜県美濃加茂市加茂野町鷹の巣2239番地		
自己評価作成日	平成25年8月18日	評価結果市町村受理日	平成25年10月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/idx.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2171200302-00&PrfCd=21&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成25年9月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームぬくもりの里かものは、田園地帯の中で自然が多く残されており住み良い環境の中に建てられています。それらを一周する散歩コースでは、田植えや収穫を見たり、四季折々の草花を観察して頂くことが出来ます。又、住居ではゆったりとした居室、大きなリビングなど住み易い快適な空間が広がっています。季節に合わせた行事が盛りだくさんあります。(花見・お祭りなど)又、年に1回1泊旅行に行き、皆さんの楽しみのひとつになっています。職員は、全員「認知症サポーター講座」を受講し、オレンジリングを持っています。認知症介護の専門性を大いに発揮しています。医療面では、月2回の往診を受けて頂き、健康管理・口腔衛生・服薬管理を行っています。各棟に看護師を配置し、急な病気などの場合も迅速に対応しています。各専門病院と連携し、万が一の場合に備えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が穏やかにその人らしく暮らし続けるように、地域の人とのふれあいを大切にしている。地域住民と一緒に畑作りや行事参加、ボランティアを積極的に受け入れ、地域との関係づくりをしている。看護師が各ユニットに配置され、日常生活のリハビリとして体を動かす(歩く・体操)、声を出す(口腔体操・脳トレニング)ことを実施している。利用者一人ひとりの暮らしぶりを家族に手書きで知らせている。管理者・職員は、利用者の楽しみの一つとなっている恒例の一泊旅行について、利用者に行きたい場所を聞き、その準備に奔走しながら、利用者と共に楽しみとしている。旅行の思い出や作品作りの体験を日々の暮らしの中に反映させたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月2回のカンファレンスにおいて、法人理念・介護理念を唱和し、理念の共有をしている。また、「穏やかに ゆっくり」というモットーを掲げ、常に意識し介護を行っています。	管理者・職員は会議時に、理念が実践されているか話し合っている。日常の介護の中で「穏やかに、ゆっくり」とを、職員同士で振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への積極的な参加と、地域との交流に努めています。	園児や地域のボランティアを積極的に受け入れている。地域の行事にはよく参加している。事業所行事では、加入している自治会へ利用者と一緒にチラシを配り働きかけをしているが、周りに家がなく、日常的な交流までには至っていない。	所属自治会へ関係づくりの努力は継続すべきである。しかし、加入の有無にとらわれず地域を広げ、積極的に働きかけ、理解者をより増やすことで日常的な関係づくりの構築を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	資格取得時の実習・市内の中学生の職業体験などの受け入れを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、地域包括支援センター、入所者家族代表、民生委員、地域住民、自治会長等の意見を取り入れ、サービスの向上につなげている。	参加しやすいように夕方から会議を開催し、事業報告や災害時の対策、地域との関係づくりなど意見交換をしている。しかし、運営に対する意見が少なく、会議録や評価の情報開示が不十分である。	事業所として地域住民との交流を深め、認知症の理解を広めてほしい。会議記録や、自己評価・外部評価などサービス評価の情報を全家族へ報告・開示することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	随時問題のある時は、行政と連絡を取り合って改善につなげている。又、月初めには利用者の利用状況を報告し事業所の実情を伝えている。	会議に毎月参加して情報交換しながら、担当者との連携できるよう心掛けている。月初めに利用状況の報告をしたり、災害訓練の結果を報告したりして、細かい事も相談出来る関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を定期的を受け、身体拘束をしないケアを実践している。玄関の施錠をせず、中庭に自由に出入り出来る環境にある。	身体拘束に関する外部研修に参加し、内部の会議等で話し合っている。ミーティング時に、車イスからの足のずれ落ちについて等、足を固定すると拘束になるのか、話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、外部研修を受講したり 内部研修を行って虐待防止につなげている。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しての外部研修に参加できる機会があれば、活用し支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、利用者・家族の方が不明な点、疑問点があれば 十分時間を取り説明をし、理解して頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に、意見や要望を伺っている。家族会などで出た意見については、すぐに検討し対応を行っている。	家族の訪問時には声かけを多くし、意見、要望などを問いかけている。家族会の代表者から「職員の名前がわからない」との意見があり、名札を身につけ、わかるようにした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月二回のカンファレンスで、職員の意見や提案を運営に反映させている。	代表者は職員との個別面談や自己評価を踏まえ、意見を聞く機会を作っている。常日頃から、職員の状態や表情を気にとめており、その都度、話をしている。ケアの方法や休憩時間の見直しを取り入れられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理職や職員の個々の実績や努力・勤務状況などを把握し、それを基に考課表により問題点をあげ各自が向上心を持てるように、職場環境や条件の整備に努め、楽しく働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理職や職員に対して、外部研修・社内研修を行っている。又、職員の資格取得については積極的にスキルアップを図れるようにバックアップをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設相互訪問を通じ、情報交換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴し、寄り添うケアに努め、職員間で情報共有し、利用者が安心して生活できるような関係作りを心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困りごとや要望などを時間を掛けてじっくり聞き取れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と話し合い、その時に必要な支援を見極め、適切なサービス利用に繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日の中で、レクや物作りの時間を作り、共に話し合い、関わりを持つようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意見を聞きながら、共に支え合う気持ちを持って利用者を支援していく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚などに、年賀状や暑中見舞いなどの四季のお便りを出すように支援している。	家族の協力を得て、馴染みの美容院・墓参り・選挙に出かけている。外出の際の夕食を楽しむ利用者もいる。四季に応じ、親戚や幼なじみに手紙を送り関係継続を支援している。希望に応じて電話の支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の合う利用者同士の関係を見極め、良好な関係が保てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた後でも面会などさせて頂いています。又、施設側とも連携をし、より良いケアが行えるように支援させて頂いています。看取りをさせて頂いたご家族様には御見送り・七七日には献花させて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを聞き取れるように、ゆっくりと話を聞く時間を設けている。	日々の利用者との会話から、俳句の趣味、料理作りや歌が大好きなことを発見して、意向の把握に努めている。困難な利用者にも、ゆったり寄り添いながら把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には、利用しているサービス提供の場に出向き、サービス利用の経過把握や、生活歴などの把握に努めています。入所後は、カンファレンスにて情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の一日の過ごし方を介護記録に記載し現状の把握に努めている。変化があれば、申し送りし、特に注意するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な限りご家族同席の担当者会議の開催を心掛けている。それを基にサービス計画書を作成している。担当職員により月に1回モニタリングを行っている。	職員は利用者の状態や気づきを記録している。本人・家族の意向、医師の意見、看護師を交えての会議で、本人の意向に沿った介護計画を立てている。退院直後や摂食状態に応じ、医師の指示を受け見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録に記入し、職員間で情報を共有し、より良い介護に繋げられるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の要望について柔軟な支援をするように努めている。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くに畑をお借りし、野菜づくりを通じ地域の方々とのつながりを持ち心豊かな暮らしを送れるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師・看護師・職員・家族間で情報を共有し、協力医とは24時間いつでも指示が仰げる関係にあります。	かかりつけ医・協力医は、本人・家族の意向に合わせている。整形外科や総合病院等の受診は家族に依頼している。看護師が本人の状態を口頭や書面で伝え、医師・家族との連携に努めている。月に2回往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ユニット毎に看護師を配置し、医療的な事への対応を全面的にバックアップする体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して治療を受けれるように、ご家族、病院と良好な関係が保てるように努めています。又、病院の相談員との連絡を密に取って、情報収集に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に向けた方針についてマニュアルが整備しており、ご家族とは事前に話し合いが持っており、看取りも行っている。	入居時に事業所の指針を説明している。利用者の重度化に伴い、その都度医師、家族、看護師等と話し合いながら対応している。看取りの事例もある。終末期には家族の宿泊する用意もしている。救急対応は消防署や看護師による指導で職員が学習している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	職員は、応急手当や初期対応の講習を行い、実践力を身につけるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を定期的に行っている。非常時に慌てず対応できるように、通報訓練は年4回行っています。自治会やご近所お助け隊の連絡網を作り地域との協力体制を築いている。	近隣の住民も参加し、夜間想定を含む避難訓練も行っている。近隣の連絡網(ご近所お助け隊)を作り、地域との協力体制が図られている。災害時に、近隣住民の避難場所として、受け入れを受託している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、トイレ前や居室入り口にカーテンを設置し外から見えないようにしている。利用者のプライドを大切にしたい声掛けを行っています。	人生の先輩として尊重し、生活歴から、その人の誇りを大切にしたい話しかけをしている。気がついたら職員同士で注意し合っている。職員は接遇研修に参加し、内部で学習し共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活のいろいろな場面で自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、出来る限り希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えなど、ご自分で選んで頂けるように支援し、隔月の出張床屋にて散髪をしてもらっています。又、家族の協力により馴染みの美容院に行かれる方もおられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳の様子を見ていただいたり、簡単な配膳のお手伝いをして頂いたりしています。テーブル拭き、消毒、食事前の体操など、当番制にし役割を持って頂いています。食事は利用者と職員と一緒に食べ楽しい雰囲気になっている。	年間の献立表を立て、利用者の好みや収穫した物、頂き物、行事等に変更している。食材は同じだが、ユニット毎に利用者の状態に合わせて盛り付けに工夫している。当番の利用者が、大きい声で口腔体操をリードしている。食事は職員も一緒に摂り、楽しい話題で笑い声がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや水分補給、毎食後に摂取量を記入し、個人個人の栄養補給の支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っています。ケア困難な方には職員が歯磨きティッシュやガーゼを使用し、口腔衛生に努めています。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表を活用し、トイレでの排泄を支援しています。又、リハビリパンツから布パンツに変更していくなど自立に向けた支援を行っています。	個々の排泄チェック表から、利用者の排泄パターンを把握している。利用者の動作から、早めにトイレに誘い、紙パンツからリハビリパンツ、布パンツへと自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫、十分な水分補給、看護師による排便コントロールを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	重度者の方も、2人介助で可能な限り浴槽に入って頂けるように支援しています。	入浴時間を決めているが、夏場や必要に応じて利用者の希望に添った入浴としている。足浴・足マッサージ器で、むくみ解消を図っている。気の進まない利用者には、馴染みの利用者と一緒に入浴を勧めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調を考慮し、午前や午後に休息の時間を設けています。足背や下肢に浮腫がある方には足浴マッサージを行い、足挙上にて改善に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の介護記録に薬の説明書が綴っており、薬のことが一目で分かるようになっている。服薬時には、名前・日付等を利用者と一緒に声に出して確認し、誤薬のないように細心の注意を払っている。内科と心療内科の薬は一目で分かるように印が付けてあります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人それぞれに合った役割を見付け、支援を行っている。又、外出等で気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い時期には、職員の見守りで中庭でお茶を飲んだり、全員で一緒に散歩に出掛けたりしている。町内の運動会や夏祭りに参加したり、少人数に分けて喫茶店に出掛けたりしている。又、誕生日には、担当者との外出でご希望の場所へお連れしている。	散歩道には畑があり、収穫したり、住民と話したり、車椅子・歩行器で田んぼ道を散歩している。薬を取りに行く途中に自宅に寄ったり、買い物したりしてドライブを楽しんでいる。利用者一番の楽しみの一泊旅行を綿密に計画し、生活の中で楽しみが持てるようにしている。	

グループホーム ぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、入所の方でお金を持っている方が居られないため、支援はしていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	四季の手紙は定期的を書いて頂けるように支援しています。又、電話を希望される方にはダイヤルするなどの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレやお風呂入り口にはカーテンを設置し、目に触れないように配慮している。廊下には、利用者との共同作業で作成した作品が飾られており、華やかな雰囲気作りをしている。	廊下には月ごとの季節の張り紙や共同作品で、季節感を表現している。ユニットの玄関には季節の花を飾り、靴、帽子、杖、車椅子を置き、自由に中庭に出られるようにしている。廊下にベンチを備え付けたり、リビングにはソファを置き、一人で過ごせたり、仲の良い利用者とくつろげるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには2人掛けや3人掛けのソファが置かれ、寛ぎの空間となっている。又、廊下のベンチの憩いの場となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望で畳を部分敷きにしたたり、鏡台や椅子、筆筒などの調度品を置いています。居室で本や新聞を読む方も居られ、自分の部屋が寛ぎの空間になっています。	居室の入口には個々の暖簾を掛け、自作の書や塗り絵、家族の写真を見やすい位置に貼っている。夫婦で入居しても、それぞれ襖で仕切り、個室にすることでプライバシーを守れるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーになっており、トイレ、廊下には手すりが設置されていて安全・安心で自由に自立した生活が送れるようになっています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200302		
法人名	特定非営利活動法人ソーシャル・ネットワーク		
事業所名	グループホームぬくもりの里かも		
所在地	岐阜県美濃加茂市加茂野町鷹之巣2239番地		
自己評価作成日	平成25年8月18日	評価結果市町村受理日	平成25年10月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_1_2013_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2171200302-00&PrEfCd=21&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成25年9月18		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月2回のカンファレンスにおいて、法人理念・介護理念を唱和し、理念の共有をしている。また、「穏やかに ゆっくり」というモットーを掲げ、常に意識し介護を行っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への積極的な参加と、地域との交流に努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	資格取得時の実習・市内の中学生の職業体験などの受け入れを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、地域包括支援センター、入所者家族代表、民生委員、地域住民、自治会長等の意見を取り入れ、サービスの向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	随時問題のある時は、行政と連絡を取り合って改善につなげている。又、月初めには利用者の利用状況を報告し事業所の実情を伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を定期的を受け、身体拘束をしないケアを実践している。玄関の施錠をせず、中庭に自由に出入り出来る環境にある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、外部研修を受講したり内部研修を行って虐待防止につなげている。		

グループホーム ぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しての外部研修に参加できる機会があれば、活用し支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、利用者・家族の方が不明な点、疑問点があれば 十分時間を取り説明をし、理解して頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に、意見や要望を伺っている。家族会などで出た意見については、すぐに検討し対応を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月二回のカンファレンスで、職員の意見や提案を運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理職や職員の個々の実績や努力・勤務状況などを把握し、それを基に考課表により問題点をあげ各自が向上心を持てるように、職場環境や条件の整備に努め、楽しく働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理職や職員に対して、外部研修・社内研修を行っている。又、職員の資格取得については積極的にスキルアップを図れるようにバックアップをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設相互訪問を通じ、情報交換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴し、寄り添うケアに努め、職員間で情報共有し、利用者が安心して生活できるような関係作りを心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困りごとや要望などを時間を掛けてじっくり聞き取れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と話し合い、その時に必要な支援を見極め、適切なサービス利用に繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日の中で、レクや物作りの時間を作り、共に話し合い、関わりを持つようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意見を聞きながら、共に支え合う気持ちを持って利用者を支援していく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚などに、年賀状や暑中見舞いなどの四季のお便りを出すように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の合う利用者同士の関係を見極め、良好な関係が保てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた後でも面会などさせて頂いています。又、施設側とも連携をし、より良いケアが行えるように支援させて頂いています。看取りをさせて頂いたご家族様には御見送り・七七日には献花させて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを聞き取れるように、ゆっくりと話を聞く時間を設けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には、利用しているサービス提供の場に出向き、サービス利用の経過把握や、生活歴などの把握に努めています。入所後は、カンファレンスにて情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の一日の過ごし方を介護記録に記載し現状の把握に努めている。変化があれば、申し送りし、特に注意するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な限りご家族同席の担当者会議の開催を心掛けている。それを基にサービス計画書を作成している。担当職員により月に1回モニタリングを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録に記入し、職員間で情報を共有し、より良い介護に繋げられるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の要望について柔軟な支援をするように努めている。		

グループホーム ぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くに畑をお借りし、野菜づくりを通じ地域の方々とのつながりを持ち心豊かな暮らしを送れるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師・看護師・職員・家族間で情報を共有し、協力医とは24時間いつでも指示が仰げる関係にあります。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ユニット毎に看護師を配置し、医療的な事への対応を全面的にバックアップする体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して治療が受けれるように、ご家族、病院と良好な関係が保てるように努めています。又、病院の相談員との連絡を密に取って、情報収集に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に向けた方針についてマニュアルが整備しており、ご家族とは事前に話し合いが持っており、看取りも行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、応急手当や初期対応の講習を行い、実践力を身につけるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を定期的に行っている。非常時に慌てず対応できるように、通報訓練は年4回行っています。自治会やご近所お助け隊の連絡網を作り地域との協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、トイレ前や居室入り口にカーテンを設置し外から見えないようにしている。利用者のプライドを大切にした声掛けを行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活のいろいろな場面で自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、出来る限り希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えなど、ご自分で選んで頂けるように支援し、隔月の出張床屋にて散髪をしてもらっています。又、家族の協力により馴染みの美容院に行かれる方もおられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳の様子を見ていただいたり、簡単な配膳のお手伝いをして頂いたりしています。テーブル拭き、消毒、食事前の体操など、当番制にし役割を持って頂いています。食事は利用者と職員と一緒に食べ楽しい雰囲気になっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや水分補給、毎食後に摂取量を記入し、個人個人の栄養補給の支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っています。ケア困難な方には職員が歯磨きティッシュやガーゼを使用し、口腔衛生に努めています。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表を活用し、トイレでの排泄を支援しています。又、リハビリパンツから布パンツに変更していくなど自立に向けた支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫、十分な水分補給、看護師による排便コントロールを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	重度者の方も、2人介助で可能な限り浴槽に入って頂けるように支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調を考慮し、午前や午後に休息の時間を設けています。足背や下肢に浮腫がある方には足浴マッサージを行い、足挙上にて改善に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の介護記録に薬の説明書が綴っており、薬のことが一目で分かるようになっている。服薬時には、名前・日付等を利用者と一緒に声に出して確認し、誤薬のないように細心の注意を払っている。内科と心療内科の薬は一目で分かるように印が付けてあります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人それぞれに合った役割を見付け、支援を行っている。又、外出等で気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候の良い時期には、職員の見守りで中庭でお茶を飲んだり、全員で一緒に散歩に出掛けたりしている。町内の運動会や夏祭りに参加したり、少人数に分けて喫茶店に出掛けたりしている。又、誕生日には、担当者との外出でご希望の場所へお連れしている。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、入所の方でお金を持っている方が居られないため、支援はしていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	四季の手紙は定期的を書いて頂けるように支援しています。又、電話を希望される方にはダイヤルするなどの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレやお風呂入り口にはカーテンを設置し一目に触れないように配慮している。廊下には、利用者との共同作業で作成した作品が飾られており、華やかな雰囲気作りをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには2人掛けや3人掛けのソファが置かれ、寛ぎの空間となっている。又、廊下のベンチの憩いの場となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望で畳を部分敷きにしたリ、鏡台や椅子、筆筒などの調度品を置いています。居室で本や新聞を読む方も居られ、自分の部屋が寛ぎの空間になっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーになっており、トイレ、廊下には手すりが設置されていて安全・安心で自由に自立した生活が送れるようになっています。		